



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
新年号

平成28年1月
Vol.9

特集

- ◆「北野大茶湯」をしのび献茶祭 厳かに斎行
- ◆天神さまと私「父が信仰していた北野天満宮」
歌舞伎俳優 市川海老蔵丈
- ◆米・ハーバード大学で「天神信仰」を発信
田辺親男京都学園理事長が基調講演
国宝「北野天神縁起絵巻」(平成記録本) 寄贈



北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国为天満宮・天神社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。今や天満宮・天神社は全国に約一万二千社と広がっています。

寛弘元年（一〇四）、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、将軍家や有力大名の崇敬を受けております。文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以て学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。そして菅公薨去延喜三年（九〇三）より百年をかけて北野の天神信仰が誕生致しました。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。



【シンボルマーク】

平安京の乾（北西）に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門（三辰信仰）から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

表紙写真 初詣 一樓門には干支（申）の大絵馬—

一樓門には今年の干支(申)の大絵馬を掲出し、初詣参拝者を迎える。境内では春の訪れを告げる早咲きの梅がちらほら咲き始め、2月上旬から3月下旬にかけて梅苑も公開される。



新年の御祝辞

謹賀新年

年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ、国家の隆昌と氏子崇敬者皆様方のご健勝ご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

昨年十二月の献茶祭は、官休庵武者小路千家千宗守宗匠の御奉仕により厳肅に斎行され、豊臣秀吉公北野大茶湯の伝統、茶文化の歴史を今に継承できました事、心より感謝申し上げます。

扱一昨年来、千百二十五年半萬燈祭に向け平成の大改修、境内整備工事に着手し、順調に進捗致しております。

御祭神菅原道真公ゆかりの別離の庭の再現、紅梅殿の移築も終え、歌舞伎発祥の地にちなみ、市川海老蔵丈の奉納舞によるこけら落としが盛況裡に行われました。紅梅殿にて引き続き種々の催しが斎行されており、今後

も文化行事が行われる予定であります。

史跡御土居のみみじ苑は、展望所の設置等の整備工事も進み、面目を一新、JR東海「そうだ京都、行こう。」のキャンペーン会場となり、全国より大勢の方々が入苑され、京の紅葉の名所として知られて参りました。

今後は、仮称神社会館の竣工に向け本格的に工事を行い、さらに境内整備計画を進めて参ります。

昨年十一月には、ハーバード大学アジアセンターにおいて「天神信仰と日本における教育重視の起源」の講演に参加し、当宮より国宝『北野天神縁起絵巻』（複製本）等を寄贈致し、日本の神社界で初めて天神信仰がハーバード大学で紹介される機会を得ましたことは、望外の喜びでありました。

天神信仰の発祥の地、全国天満宮の宗祀の神社として、北野天神信仰の教義・教学の確立に向け、教学・芸能・茶道等々、種々文化発信を奨めて参る所存でございます。

今後とも皆様には北野天満宮の御事につき、ご理解ご協力をお願い申し上げます。



新年を言祝ぎ、まず若水を神前に御奉献



北野天満宮

宮司 橘 重十九

平成二十八年丙申 元旦

名譽宮司		宮司		権宮司		禰宜		権禰宜		出仕		事務員		職員																
梶	橘	加藤	松吉	神原	加藤	中野	小竹	玉井	嶋田	松大路	黒木	東川	白江	田中	湯浅	上	川村	山本	田淵	伊藤	近藤	一色	木村	益田	上田	庄村	本郷	川崎	澤井	足立
季嗣	重十九	迪夫	真幸	孝至	道嗣	晃靖	史浩	清文	貴績	和弘	崇史	楠彦	秀宜	副央	和雅	将司	亮滋	茜	咲弥	友香	利奈	紗里	綾	真実	彩華	正男	晃司	純平	美里	義人

「北野大茶湯」をしのび献茶祭、厳かに斎行 好天に恵まれ、境内にぎわう



御神前にてご奉仕される武者小路千家官休庵千宗守家元（御本殿）

当宮とは深い縁のある豊臣秀吉公が催した歴史
上名高い「北野大茶湯^{きたのおちやのゆ}」をしのぶ献茶祭が、十二
月一日午前十時半から本殿において、武者小路千
家千宗守家元のご奉仕により、献茶祭保存会役員
を始め茶道関係者ら多数の参列の下、厳かに斎行
された。この日から師走入りだったが穏やかな好
天に恵まれ、史跡御土居の「もみじ苑」も見ごろ
とあつて参拝者も多く、社務所や明月舎など境内
五カ所に設けられた茶席は、いずれも満員の盛況
ぶりをみせた。

「北野大茶湯」は太閤ゆかりの大茶会

さて、献茶祭の基となっている「北野大茶湯」は、
『広辞苑』にも「天正十五年（一五八七）十月一日、
北野天満宮で豊臣秀吉が千利休・津田宗及・今井
宗久らとともに亭主をつとめた大茶会」と記され
るほどの大規模なものであった。二カ月前に立て
られた茶会参加を呼びかける高札には「茶好きの
者は、町人・百姓・唐人に至るまで参加せよ」と
いうもので、当宮拝殿には名器の数々が展観され、
北野の森には約八百の茶席が並んだ、といわれる
ほどの想像を絶する大茶会であった。



献茶祭斎行



武者小路千家ご宗家揃って献茶祭ご奉仕



千宗屋若宗匠によるお点前

神前での献茶祭 今年の奉仕は武者小路千家家元のご奉仕

神前での献茶祭のご奉仕は、在洛の四家元・二宗匠（藪内家・表千家・裏千家・武者小路千家・堀内家・久田家）が輪番で務められるのが古くからの習わしで、今年は武者小路千家家元のご奉仕となった。

官休庵家元千宗守宗匠と千宗屋若宗匠が、御祭神と、豊太閤を祀る末社豊国神社の神前に献上する濃茶・薄茶をそれぞれ一椀ずつお点てになった。

この後、橘重十九宮司が祝詞を奏上、千宗守家元や献茶祭保存会の代表らが神前に玉串を捧げ、本殿祭を終えた。

しかしこの大茶会、十日間開催される予定が何らかの理由によりわずか一日だけで終わってしまったが、境内には、水を汲んだと伝わる「太閤井戸」や、また茶室・松向軒内には細川三斎公が使用した井戸（三斎井戸）が残るなど大茶湯の縁を伝えている。

明治十九年には大茶湯三百年記念献茶式、昭和十一年には五日間に及ぶ三百五十年記念の「昭和の大茶湯」が開催されるなど歴史を引き継いでおり、境内にある明月舎・松向軒の二つの茶室では毎月月釜が掛けられるなど当宮とお茶は密接な関係がある。

十二月一日の献茶祭も古くから続いており、現在も献茶祭保存会の並々ならぬ後ろ盾で斎行されている。



末社豊国神社 献茶祭斎行



玉串拝礼



ら献茶祭保存会役員による口切式

豊国神社でも祭典を斎行

本殿での献茶祭が終わった後、権宮司以下祭員と千宗守家元らは末社豊国神社にて祭典を執り行い、全ての諸祭儀を恙なく奉仕した。

社務所広間に拝服席、明月舎には本席

この日、社務所広間には拝服席（官休庵）、明月舎には本席（官和会）が設けられたほか、社務所奥の間（香川官休会）・松向軒（松向軒保存会）・上七軒歌舞練場（上七軒お茶屋組合・同芸妓組合）に副席が置かれ、また、神楽殿南側にはそば席（北野天満宮献茶祭保存会）も設置された。

「京の山」を菓題に珠玉の一品 献茶祭に協賛「菓匠会」が銘菓を展示

この献茶祭に協賛し、毎年この日に飾り菓子の展示会を開いている「菓匠会」は、今年も絵馬所で「京の山」を菓題にした珠玉の一品の展示会を開いた。

「菓匠会」は、江戸時代の禁裏御用達の「上菓子仲間」の流れをくむ老舗和菓子店二十店で組織されており、今年の菓題である「京の山」をテーマに「北山初雪」「比叡嵐」「衣笠山」「稻荷山」などの題をつけ、珠玉の一品を展示した。展示された菓子の間近に寄って見つめ、「すごい」「お菓子だとは思えない」などといった感嘆の声があちこちであがっていた。

御茶壺奉献奉告祭・口切式は古式ゆかしく

献茶祭に先立ち、十一月二十六日午前十一時から本殿にて、献



による副席（松向軒）



香川官休会ご奉仕による副席（社務所奥の間）



官和会ご奉仕による本席（明月舎）



長谷幹雄氏・大倉治彦氏・山本源兵衛氏・畑正高氏

茶祭に使用する抹茶の原料となる碾茶^{てんちゃ}を奉獻する御茶壺奉獻奉告祭が斎行された。

この碾茶の奉獻は、山城六郷（木幡・宇治・菟道・伏見・桃山・小倉・八幡・京都・山城）の茶生産者と茶業関係者によって行われるもの。茶壺に詰められた碾茶は、産地ごとに唐櫃に納められ、一の鳥居から本殿まで、紺の着物に姉さんかぶり。茜たすきの茶摘み娘を先頭にした御茶壺行列によって運ばれた。

本殿では献茶祭保存会役員らが古式にのっとり次々に茶壺の口を切り、鮮やかな色の碾茶を茶舟の上に盛り上げ、宰領の渡辺孝史氏によって丁寧^{ていねい}に検知された。

口切式が終わった後、碾茶は抹茶にされ、この日の献茶祭を迎えたのである。



古式ゆかしく御茶壺道中



各生産地より献上された御茶壺



御本殿に御供えされた御茶壺と各産地の碾茶



さいりょう 宰領渡辺孝史氏による碾茶の検知



菓匠会の協賛による飾り菓子展覧（絵馬所）



艶やかに上七軒歌舞会による副席（上七軒歌舞練場）



松向軒保存会ご奉仕



「父が信仰していた北野天満宮」

歌舞伎俳優

市川海老蔵丈



平成三十九年に斎行される千百二十五年半萬燈祭に向け境内整備が着々と進む中、『北野天神縁起絵巻』にも描かれている菅公別離の庭にちなむ紅梅殿の移築修復が終わった。当宮は、慶長八年（一六〇三）三月に出雲の阿国が踊ったという記録が伝わる場所から歌舞伎発祥の地として知られており、そうしたご縁から十月二十五日、人気歌舞伎俳優の市川海老蔵丈にお越しいただき、紅梅殿の柿落しとして国家安泰・延年長寿を祝う「延年の舞」を奉納していただいた。

海老蔵丈は、橘宮司の歓迎の挨拶を受け、開口一番「天神さまは、菅原伝授手習鑑で様々な役をさせていただき、大変お世話になっております。ことに北野天満宮さまには父が個人的に信仰をもち、よく伺がわせていただいていたようです」と、応えらえた。

「ええ、たびたびお参りいただいておりますよ」と、当時を知る橘宮司が、父の市川海老蔵丈（十二代目團十郎）が、当宮によく参拝されていたことを示す『北野天満宮社報』（昭和四十九年五月十五日号）を取り出すと、「なるほど、なるほど」と、笑顔でうなずかれた。

そこには「天満宮と私」のコーナーで、「歌舞伎とは深いご縁」の見出しがつき、昇殿参拝する前に神職から手水を受ける父親の写真が掲載され「南座など関西での興行の折には、寸暇を割いて





参拝し、神前に額づき、斯道の発展のために祈願した」と書かれており、大の北野天満宮の信者だったことがうかがえる。

「あの出雲の阿国さまが、境内で公演されたのですね。そうか、北野天満宮さまは、歌舞伎の発祥地だということをお父も言っていたような気がします。だから京都公演の折には足繁く寄せていただいたのですね」と、海老蔵丈納得の様子。そして、ご自身も二度ほど父親に連れられて来た記憶があるという。

橘宮司が「菅原伝授手習鑑もありますし、歌舞伎とは切っても切れない縁がある当宮ですので、本日の紅梅殿の柿落しを海老蔵さまにさせていただくことになったのです。紅梅殿というのは、菅原道真公の邸宅でして、大宰府に旅立たれる時に、庭を見ながら有名な「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて春を忘るな」の歌を詠まれた所です。国宝『北野天神縁起絵巻』にも描かれているような庭を造ろうと、このたび移転修復したわけです」と述べると、海老蔵丈は「本当は信仰を持っていた私の父、團十郎が奉納舞踊をすべきだったと思います。その代わりといつては、まだまだ及びませんが、今回お招きいただきまして奉納できたことについては本当に感謝しております」と、返された。

海老蔵丈には、長男勸玄くん、長女麗禾ちゃんの二人のお子さんがいる。

橘宮司から「当宮は年間三十万人ほどの修学旅行の昇殿参拝がありますが、一番人気の高い技芸上達と学問向上を祈るお守りをお二人のお子さまのために用意いたしました」と、お守りを手渡すと「北野天満宮さまは学問の神さまですものね」と、海老蔵丈。「かつてはお父さま、このたびは海老蔵さま、将来は勸玄くんにもぜひご参拝していただき、三代にわたって参拝していただければ宮司としてうれしく思います」との橘宮司の言葉に、にっこりと笑みで返された。

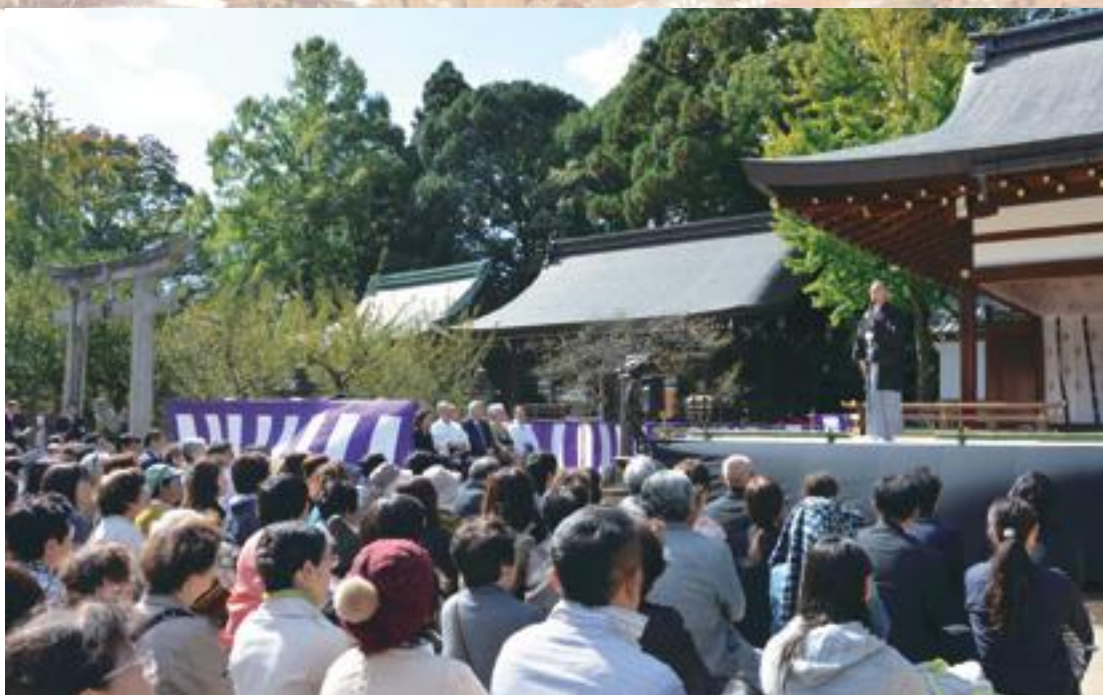
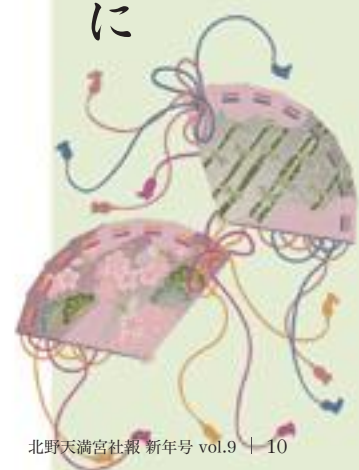
海老蔵丈は、奉納舞が終わった後の記者会見で「実は今年の四月に個人的に北野天満宮に参拝しましたよ」と、打ち明けられ、「境内を歩いていると、何かほっとする思いがします」と話された。



青空の下、映える紅梅殿 移築修復完成を祝う

市川海老蔵丈が力強く「延年の舞」奉納

舞台上からの餅まきも華やかに



市川海老蔵丈 ご挨拶

御祭神菅原道真公邸宅ゆかりの紅梅殿の移築修復がなり、御縁日の十月二十五日、歌舞伎俳優の市川海老蔵丈が柿落として「延年の舞」を奉納した。「成田屋」の威勢のよい掛け声が飛ぶ中、海老蔵丈は舞台を一杯に使って力強く舞いを奉納し、詰めかけた約五百二十人の崇敬者・参拝者を魅了、紅梅殿の移築修復を祝った。

当宮は、慶長八年（一六〇三）に歌舞伎の祖といわれる出雲の阿国が境内で初めて興行したという記録が残っており、歌舞伎と深い縁があることから、この日の海老蔵丈による柿落としての奉納舞となった。

海老蔵丈は、この日、午前十一時過ぎ当宮へ到着。まず本殿へ昇殿参拝し、玉串をささげて奉納舞の成功を祈った後、紅梅殿の舞台上に立った。

舞の奉納に先立ち海老蔵丈は「本日は、この紅梅殿の移築修復が完成したということでお祝いに駆け付けさせていただきました。ここで奉納踊りというものを執り行うことができ、この場をお借りして御礼申し上げます。この北野天満宮さまは、私の父でございます十二代目團十郎が大変信仰を持っており、京都の公演の折には必ず参っていたという懐かしい思い出もございます。北野天満宮さまは、実は慶長八年三月二十五日に出雲の阿国という方、この方は歌舞伎発祥の人といわれていますが、境内で公演をしたという記録が残っているそうです。

本日は紅梅殿修復ということで奉納舞、延年の舞をご披露いたす次第でございます。本年十二月、大先輩でございます翫雀兄さん（中村翫雀丈）が中村鴈治郎を襲名される（南座・吉例顔見世興行）というところで、私も夜の部に参加させてい





延年の舞



記者会見



餅まき

紅梅殿の「延年の舞」奉納後、社務所大広間で海老蔵丈の記者会見が行われ、舞い終えた感想を次のように述べられた。

「延年の舞と申しますのは、勸進帳の一場面にあり、勸進帳のイメージが強いかもしれませんが、実は様々なものがございます。読んで字のごとく長生き、健康という願いもあります。勸進帳で延年の舞をする、ある意味で弁慶の富樫に対する思いが出てくるわけですが、延年の舞だけで奉納させていただくとすると、それは別の意味をつけないといけないというところで舞わせていただきました。また、化粧も衣装もしない場合は、歌舞伎の舞台とは基本的には全部違います。動きは大分違いますし、歩幅も手の角度も違います。ですが、本日は天候にも恵まれ、風も心地よく吹き、私としては大変気持ちよく舞わせていただき、感謝しております」

「大変気持ちよく舞わせていただきました」

——奉納舞を終えて海老蔵丈、記者会見で感想

延年の舞奉納後、紅梅殿の舞台上から海老蔵丈、橘重十九宮司らによる餅まきが華やかに行われた。

この日は風は少し強かったものの雲ひとつない絶好の好天となり、真つ青な空の下、修復された「紅梅殿」がひとときわ映え、海老蔵丈の柿落しを盛り上げた。

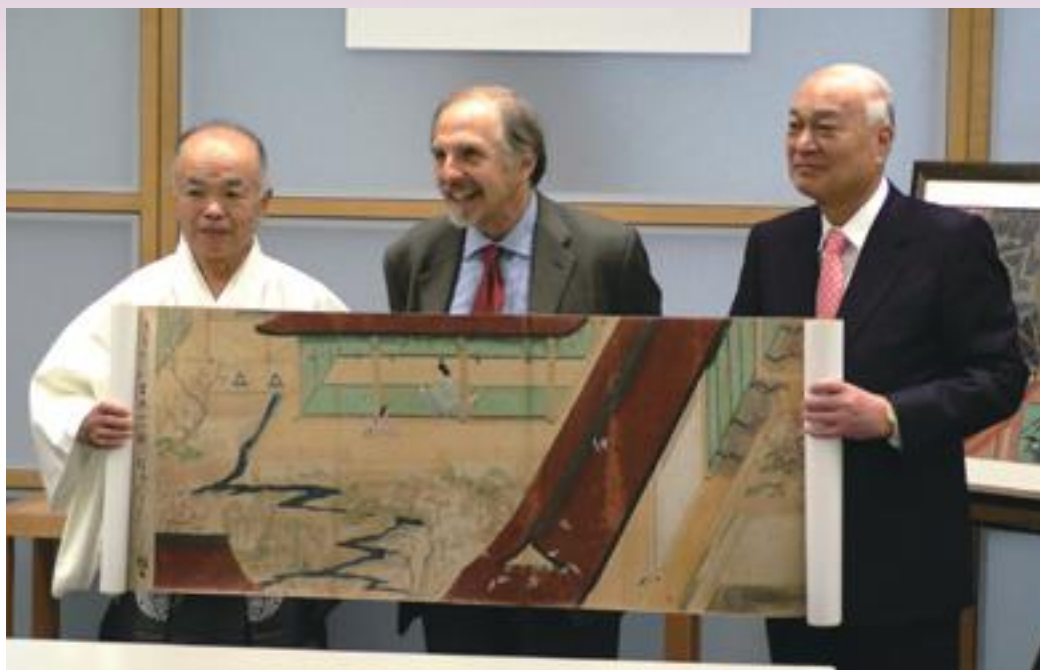
そして、紅梅殿の舞台いっぱいを使って素踊りで迫力あふれる「延年の舞」を披露すると、客席のあちこちから「成田屋」の掛け声が飛び、拍手がわいた。

「延年の舞」を披露すると、客席のあちこちから「成田屋」の掛け声が飛び、拍手がわいた。

そして、紅梅殿の舞台いっぱいを使って素踊りで迫力あふれる「延年の舞」を披露すると、客席のあちこちから「成田屋」の掛け声が飛び、拍手がわいた。

そして、紅梅殿の舞台いっぱいを使って素踊りで迫力あふれる「延年の舞」を披露すると、客席のあちこちから「成田屋」の掛け声が飛び、拍手がわいた。





ハーバード大学アジアセンター・クライマン所長に「北野天神縁起絵巻」を贈呈

米・ハーバード大学で「天神信仰」を発信

田辺親男京都学園理事長が基調講演

国宝「北野天神縁起絵巻」(平成記録本) 寄贈

天神信仰の新たな展開へ

京都学園大学などを運営する学校法人京都学園の田辺親男理事長が十一月五日、アメリカで最も古く、権威ある私立大学として知られるハーバード大学(マサチューセッツ州)のアジアセンターで講演され、縄文人の文化的遺伝子や感性が日本人の心の中に刻み込まれていることや、天神信仰が日本の文化・教育に多大な影響を与えたことなどについて話された。この講演には当宮から橘重十九宮司ら三人も同席し、アシストするとともにアジアセンターに国宝『北野天神縁起絵巻』(複製品)などを寄贈し、交流を深めた。菅原道真公や天神信仰がハーバード大学で紹介されるのは初めてという。

この催しは、「ハーバード・ジャパン・イベント」(ハーバード大学アジアセンター、ハーバード大学ライシヤワー日本研究所の共催)の一環として開かれたもので、アジアセンターのシニアフェローでもある田辺理事長がゲストスピーカーとして「天神信仰と日本における教育重視の起源」の演題で講演の場に立たれた。

田辺理事長が、こうした演題で講演するきっかけとなったのは、ロータリークラブの会合などで親しかった橘宮司との交流の中で芽生えた。橘宮司の「日本人の素晴らしい感性は、縄文人の文化的遺伝子による」、菅原道真公の和魂漢才の精神の話に共感され、特別幹事をされている京都経済同友会の会合に橘宮司を講師として招き、同様趣旨の講演に感銘を受けられた事。また、田辺理事長は、毎年、学園や大学の役員・幹部教職員を伴って昇殿参拝され、道真公の学問の精神を受け継ぎ、人間力豊かな人材を育



ハーバード大学創設者像前にて



贈呈式の様子



ハーバード大学構内風景

成することを祈願されている。「ぜひ、一緒にハーバード大学へ行き、縄文の遺伝子を引き継ぐ日本人の素晴らしさと、天神信仰を発信しましょう」と懇請され、加藤迪夫権宮司、神原孝至禰宜も同行することとなった。

講演に先立ち、橘宮司からアジアセンターのアーサー・クライマン所長に対し国宝『北野天神縁起絵巻』（複製品）一巻、天神人形（陶器）一体、束帯天神像（複製品）一枚などが寄贈され、会場に展示された。

講演は、英語で行われた。田辺理事長は、スライドを使いながら二つある日本人の民族的なルーツから話し始め、「縄文人の感性と文化的DNAは日本人の心の中に深く刻まれている」と言い、「古代日本では自然の事物の中に神が宿っていると信じていたが、平安時代に歴史上の人物である菅原道真公が神となり、北野天満宮はその道真公を祀っている」と、展開された。そして、「日本の文化、教育の向上に天神信仰が大きく寄与した」とし、「天神信仰の精神が、宗教の垣根を超えて世界中の人に理解されることを願っている」と、結ばれた。

ハーバード大学は、一六三六年設立のアメリカ最古の大学で、これまで多くの大統領やノーベル賞受賞者を輩出している名門中の名門大学。常にアメリカにおける最高の学問的水準を誇り、その研究や実践は他国にも大きな影響を与えている。

橘宮司は「日本人には古くから自然を尊ぶ感性があり、それは縄文人の文化的遺伝子であるというのは、私の神職としての持論。医師であり、神道にも極めて造形の深い田辺先生が、最近のDNA研究の結果などからめ的確にお話して下さりありがたかった。また、歴史上の人物として一度この世に生まれ、神上がりされた菅公が、文道の大祖、風月の本主として崇められ、その精神が今も日本人の感性に受け継がれ、学問や芸能などの神として信仰を集め、全国に一万二千社もの天満宮に広がり、北野天満宮がその発祥の地であることなどをお話しいただいた。ハーバード大学で天神信仰が発信されたことは素晴らしいことで、北野天満宮に奉仕する宮司としてたいへん喜ばしい」と、感想を述べた。



田辺理事長の講演



宮司挨拶

天神信仰と日本における教育重視の起源（講演要旨）

学校法人京都学園理事長 田辺 親男

本日の講演は、北野天満宮の橘重十九宮司、加藤迪夫権宮司、神原孝至禰宜と私が共同で作りに上げたものであることを最初にお断りします。日本の文化・感性・教育といったものについて、九世紀から十世紀の政治家で後に神道における学問の神となった菅原道真という歴史的人物を紹介しつつ論じます。日本の教育に彼がいかに貢献したかを述べる前に、歴史を少々遡り、まず日本人がどこから日本列島に来たのかをお話したいと思います。

日本文化は、しばしば中国や韓国の文化と混同されます。それは両国から多くのことを学んできたためですが、最近の日本人のDNAを分析した研究では、DNAの組み合わせは、中国や韓国の人とは異なっている人も多く、チベットやインド洋のアンダマン諸島の方々と共通点があることもわかってきました。

日本人には、二つの民族的なルーツがあると言われています。一つは、約一万五千年前に日本に定住した縄文人であり、もう一つは、後に主に中国大陸や朝鮮半島からやってきた弥生人です。（父親から息子に遺伝していく染色体グループの詳しい解説は省略）

基本的には狩猟と採集で糧を得ていた縄文人は、自然と調和した暮らしをし、その感性と文化的DNAは、日本人の心の中に深く刻まれています。豊かな自然と四季に恵まれた中、古代日本人は、山・川・海・森などといった自然界のすべてのものに神が宿ると信じ、この概念が日本独自の宗教である神道の原型といえます。神道は、必ずしも組織化された宗教ではありません。聖典も創始者も教団もなく、美意識、感謝の気持ち、畏怖、自然への敬意といった縄文時代から息づいてきたものがベースとなっています。

しかし、平安時代になると、こうした自然の中に神が宿るという古代からの信仰とは別に、新しい信仰体系が発生します。歴史上の人物が神になり、崇められる対象になるということで、初のケースが北野天満宮に祀った菅原道真です。北野天満宮は、全国一万二千社にのぼる天神さまの総本社であり、天神信仰発祥の神社なのです。



北野天神縁起絵巻の解説



寄贈品を展覧し

道真は、九世紀末には天皇に重用され、若くして朝廷の高官になりましたが、政争に巻き込まれて九州の大宰府に左遷され、九百三年に客死します。彼の死後、京の都は激しい雨や落雷などの災害に見舞われ、政争相手だった藤原氏の一族が落雷や火災・洪水で家を失ったり、命を落としたりしました。朝廷では、道真の怨霊がもたらしたとして、彼の霊を慰めるために左遷の記録を焼却、地位を回復させ、「天神さま」として北野天満宮に祀ることとなったわけです。

北野天満宮は、道真の恨みを鎮めるためのものでしたが、天神は、後に学問、文芸、書道、舞台芸術などの神となりました。私は、道真は高い地位にありながら平和を愛し、優しく、知性があり、文芸に秀でていたという日本人の理想の姿を代表したものだと考えています。

ところで、日本の識字率は世界でも最高のレベルにあります。一八五〇年代の日本の就学率は、七〇パーセントから八六パーセントという高いものでした。当時の庶民の子どもたちが通っていた学校を寺子屋といい、読み・書き・算数・地理と、日常生活に必要なスキルを教えていました。どの寺子屋にも道真の姿を描いた「天神さま」の絵や像が飾られ、子どもたちは、まず天神さまに手を合わせた後、勉強を行ったのです。こうした寺子屋は江戸時代を通じて日本全国に増えていき、天神信仰は、日本人の教育の普及と識字率向上に大きな役割を果たし、日本の近代化に多大なる貢献をしました。

現代の日本の学校教育では神道は教えませんし、道真の肖像や人形も飾りません。しかし、今も天満宮には大学や高校の入学試験合格を願って多くの学生が参拝します。

最後に道真の和歌を一首紹介します。

心だに誠の道にかなひなば 祈らずとても神や守らむ

私流の解釈をすれば、誠の道に従うことの大切さを説いています。誠の道は、教育によって学んでいくもので、それ故、寺子屋に天神の人形が飾られたわけですね。学ぶことによって、ただ賢くなるだけでなく、神が守ってくれるということです。何と素晴らしいことでしょう。そして、これは日本人の宗教に対する姿勢をよく表していると私は思っています。天神信仰の精神が、宗教の垣根を超えて世界中の人たちに理解されるようにと願っております。

初詣



歳旦祭

一月二日

新年最初の神事。午前七時から宮司以下神職によって本殿で斎行され、年頭に当たり皇室の弥栄・国家国民の隆盛・世界平和併せて氏子崇敬者の弥栄を祈願する。



筆始祭並びに「天満書」奉納

一月二日

午前九時から本殿で菅公御遺愛の硯などを整え、書道の神でもあった菅公の御神徳を偲び、この日から神前書き初め「天満書」を始めることを奉告する。「天満書」は、絵馬所で四日まで行われ、子どもたちが書道の上達を願って力強く書き初めをし、書いた作品を奉納する。これに家庭で書き、奉納された作品を加え、例年約四千点が二十日午後一時から三十日午後三時まで西廻廊および絵馬所で展示され、展示初日に書家の先生方によって審査が行われる。



献花展

華道家元池坊

京都支部

一月二日まで

元旦から神楽殿で開催され、立花・生花・自由花の形で生けられた正月らしい生け花が初詣参拝者の目を楽しませる。

新春奉納狂言が午後一時から神楽殿で、猿楽会と茂山良暢氏によって行われる。

新春奉納狂言

一月三日



午前十時から絵馬所で行われ、小学生ら約四〇〇人がそろばんの上達を願ってはじき初めをする。長さ五・五メートル、四百桁もあるジャンボそろばんが毎年話題となる。

そろばんはじき初め

一月五日

楼門に西陣系人形

一月五日まで

西陣のつくりもの人形「糸人形」が楼門内部左右に展示される。西陣織工業組合の依頼により毛利ゆき子西陣和装学院学長の監修指導のもと同学院と西陣連合青年会が毎年テーマを変えて制作する。



初天神

一月二十五日

一年で最初の御縁日であり、表参道を始め境内周辺は、多くの露店が並びひとときわにぎわう。すでに受験シーズンに入っており、本殿前や牛舎前は若者の行列ができる。



梅花祭

九百有余年の
歴史ある祭典

二月二十五日



菅原道真公の祥月命日に当たる二月二十五日午前十時から本殿で梅花祭が厳かに斎行され、御祭神の御遺徳をしのぶ。神前には七保会の会員が調製した「梅花の御供」「紙立」という二種の特殊神饌が奉饌される。また、貞明皇后御参拝の古例により宮内庁京都事務所長が皇后陛下の御代拝として参向される。

境内では美しく咲いた梅花の下、上七軒歌舞会の女将・芸舞妓らの奉仕により「梅花祭野点大茶湯」も行われる。公開中の梅苑を含め境内は参拝者で大賑わいとなる。



午前十時から本殿で節分祭を斎行し、一年間の災厄を祓った後、午後一時から神楽殿で茂山千五郎社中による伝統の「北野追儺狂言」が奉納される。上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納もあり、最後に出演の狂言師と芸舞妓が神楽殿の上から威勢よく豆をまく。

当宮は京都の「乾（北西）の隅」の守り神として創建されて以来、災難除け・厄除けの社としても篤い信仰があり、節分には「四方詣り」と称して当宮など四社寺を参拝して無病息災を祈る習慣が根付いている。



二月三日 節分祭と追儺式



国宝御本殿前の鈴の緒、一挙六本に増やす 参拝者のより円滑なお参りと混雑解消に



鈴の緒が六本になった御本殿

鈴の緒を六本に増やす対応を行った。

「真ん中に並ぶだけでなく、左右に分かれて参拝して下さい」とかねてから呼びかけてきたが、鈴の緒がある中央には常に長い列ができ、いつも混雑状態であったため、参拝者がよりスムーズに且つ清々しくお参り出来るよう考えた今回の措置。

無論、国宝指定の御社殿のため、取り付けに当たっては、建物を一切傷つけないよう配慮して設置している。

これにより秋の紅葉シーズンもスムーズに参拝出来るようになり、「並ぶことなくお参りができ、ありがたい」との声が参拝者から多く寄せられていくほか、年末年始にかけて繁忙期の参拝者や、時間があまり取れない修学旅行生らには朗報となっている。



従来の参拝風景 本殿前には長蛇の列

今年の干支 申の襖絵の

掛軸「群れの猿」を発見

「干支の引き札」「ジャンボ行燈」の絵柄に使用



発見された襖絵の掛軸「群れの猿」

平成二十八年の干支にあたる申の襖絵の掛軸二幅を、当宮の蔵より新たに発見した。

品名は掛軸「群れの猿」二幅、各寸法は縦一九二センチ、横一三二センチ。作者、製作年月日は不明だが、今後専門機関で調査を行う予定である。

これらは迎春縁起物「干支の引き札」および「ジャンボ行燈」の絵柄にも使用している。



「干支の引き札」絵柄

「干支の引き札」は毎年、天満宮の数ある宝物や収蔵品よりその年の干支の絵柄を選び、元旦から参拝者に無料で頒布し好評を得ている。

史跡御土居「もみじ苑」は、十月二十五日から開苑されたが、JR東海の「そうだ京都、行こう。」のキャンペーン地に選ばれたことの後押しもあって、例年になく賑わいとなった。

大賑わいの史跡御土居「もみじ苑」 「そうだ京都、行こう。」の キャンペーンが後押し



御土居展望特設舞台から眺めるライトアップされた境内一円



見頃に訪れた多くの参拝者



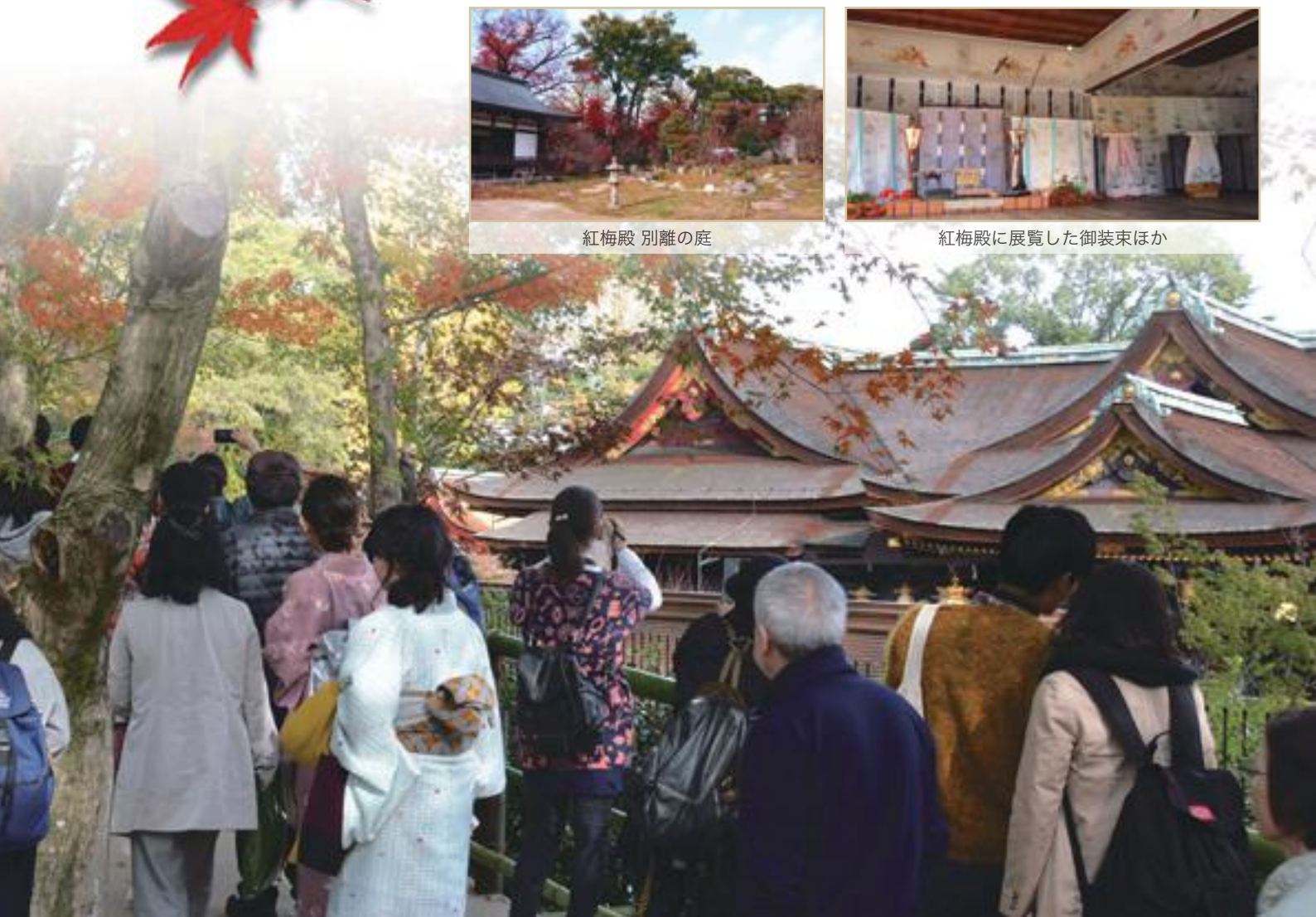
鶯橋のライトアップ



紅梅殿 別離の庭



紅梅殿に展覧した御装束ほか





連日多くの参拝者が訪れた境内



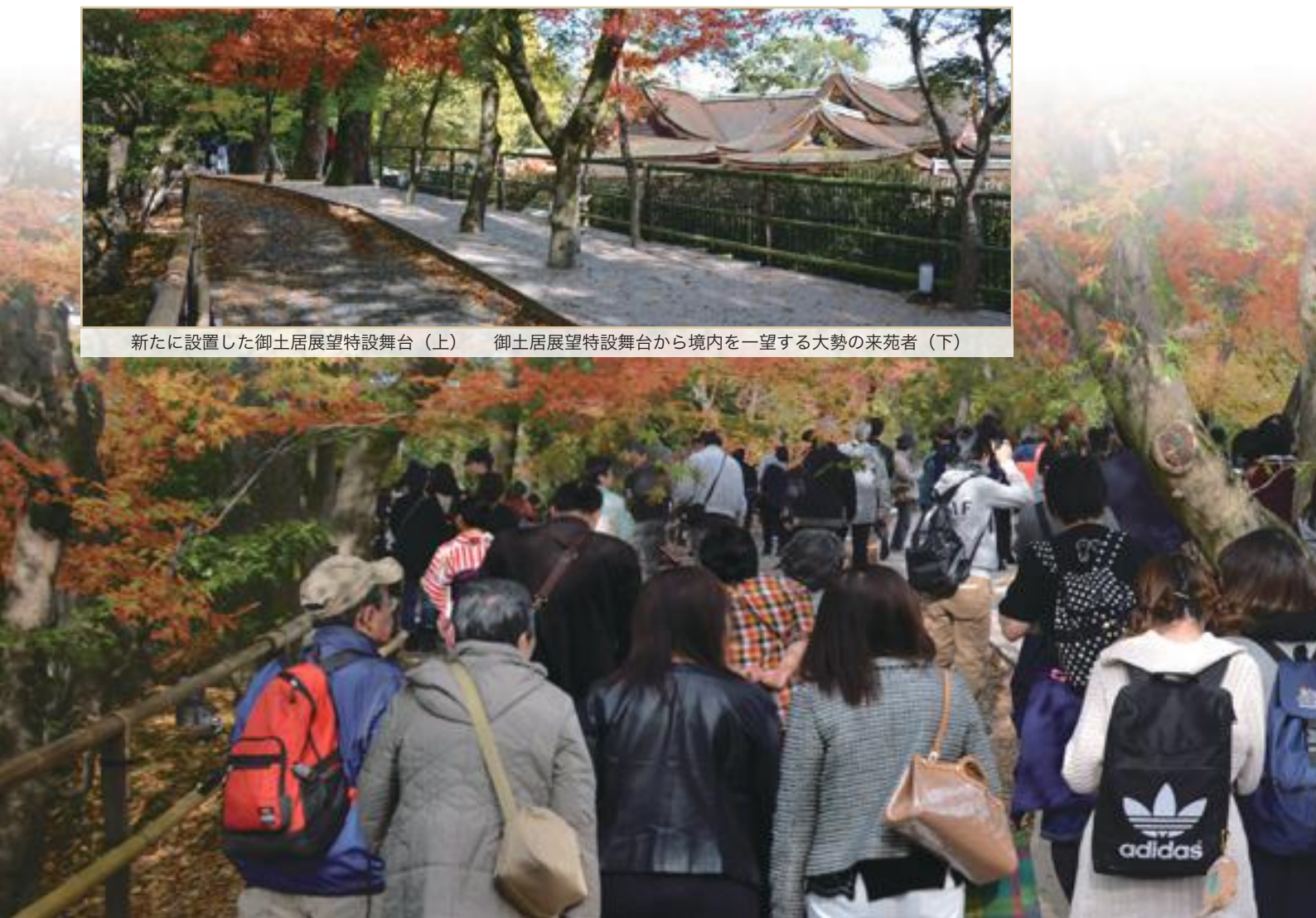
賑わう茶店



幻想的な雰囲気を造り出した境内夜間拝観



新たに設置した御土居展望特設舞台（上） 御土居展望特設舞台から境内を一望する大勢の来苑者（下）



今年のもみじの色づきは、秋が暖かかったため、色づきの期間が長く「色づき三分」「色づき五分」とも遅れ、「見ごろ」となったのは、十一月下旬だった。しかし、参拝者の出足は早く、土日・祝日を中心に境内は賑わい、ライトアップが始まるや常にごった返す賑わいとなった。

例年との違いは、JR東海の「そうだ京都、行こう。」のキャンペーン地に当宮が初めて選ばれ、JR駅に張られたポスターやインターネットを見て、参拝者が一気に増えたことである。

ライトアップが始まったところから賑わいはとくに増し、多くの人が「もみじ苑」に入苑し、豊臣秀吉公が築いた御土居の自然にひたり、ライトの中に映える鮮やかな「錦秋の美」を堪能していた。九州からやって来たというご夫婦は「今まで北野天満宮が紅葉の名所とは知らなかった。御土居の紅葉の美しさに打たれました」と、満足そうに話していた。

錦秋の
史跡御土居
「もみじ苑」開苑
多彩な
奉納行事で賑わう



十一月十四日

上七軒歌舞会 日本舞踊奉納

上七軒の舞妓さん三人が「重ね扇」「京の四季」「もみじの橋」の三曲をあでやかに披露し、あいにくの小雨模様にもかかわらず、参拝者は醸し出される日本舞踊の情緒に浸っていた。

十一月三日

京都連歌の会 連歌奉納

京都連歌の会の「もみじ連歌会」が、文化の日の十一月三日午後一時から紅梅殿で開催され、「賦唐何連歌」によって詠んだ作品を奉納した。

当宮は中世から江戸時代にわたって連歌会所が置かれ、連歌会が盛んに張行されてきた。そうした連歌ゆかりの神社であることから、京都連歌の会では毎年春には「梅ヶ枝連歌会」を、また秋には「もみじ連歌会」を開いている。

十一月二十一日

京都三大学合同交響楽団演奏

・京都工芸繊維大学
・京都府立大学
・京都府立医科大学
弦楽器や管楽器のアンサンブルで、クラシックやポピュラーの名曲を次々と演奏し、もみじ狩りの参拝者を魅了した。



十一月二十三日

柔術天神真楊流 古武術の演武奉納

江戸時代後期の紀州藩士が天神真楊流の流祖。この日は、浅山一伝流体術・甲源一刀流剣術・正木流万力鎖術・九鬼神流棒術といった古武術を披露。



奉納連歌

平成二十七年十一月三日

於 北野天満宮紅梅殿張行

賦唐何連歌

初折 表

紅葉にも梅は久しき宮居哉

宮司

こなたかなたに色鳥の声

重十九

山の端に夕月は早や耀りそめて

まり絵

ふもとにとどく風の香のあるときじくの清水絶えせぬみ井ならむ

満千子

ゆるることなくやどる面影

光代

いつしかに薨戸濡らす初時雨

幸子

初折 裏

ゆき交ひの衣のあやも都ぶり

景子

勇める駒もしばしつながらむ

孝子

よき友に挿みて送るみそぎはぎ

明子

紙屋のほとり目くばせの秋

武彦

節子

十一月二十二日

露の五郎兵衛一門会

露の五郎兵衛一門会による「北野天神もみじ寄席」が十一月二十二日午後三時から社務所大広間で開催された。

この日は、露の陽・新幸・紫・新治・眞・団姫・団四郎・吉次・雅・慎悟と「もみじ寄席」始まって以来という計十人もの若手・ベテランの落語家が高座にのぼり、満員の会場を笑いの渦で包んだ。

なお、「もみじ寄席」開演に先立って同日午後二時から境内にある初代露の五郎兵衛碑の前で出演者が参列して碑前祭が斎行され、一門の益々の繁栄を祈願した。



十二月二十五日

阿武野逢世 奉納演奏 鈴江 先子

ギター奏者
オカリナ奏者

阿武野さんのギターの弾き語り、鈴江さんのオカリナのコーボレーションという当宮ではおなじみの奉納演奏会。菅公の和歌や鈴江さんの作曲作品が次々披露された。



十一月十四日・二十二日・二十八日

北野天神太鼓会 和太鼓奉納

紅梅殿でかがり火がたかれる中、勇壮な太鼓の音が響くと、十重二十重と人が取り囲み、太鼓奉納では過去一番の聴衆の数となった。氏子区域の仁和小学校太鼓クラブの面々も駆け付け、巧みなバチさばきを見せ、盛んな拍手を浴びていた。



霧を心の年経ちわたる
ありわびて世を遁れ入る山もなし
分けゆく奥に誰ぞ住むらむ
笛吹けど横になびけど逆立つも
春月あはく仰ぐあららぎ
東雲に引き売る蜩どうどすゑ
霞む遠里ただになつかし
咲きみちてしづもるばかり花の山
ならび歩みし下道いつぞ

名残 表

ほととぎす別れの岸に声あげて
蚊遣火ほのか君の頬うつ
さりながらなほ焦がれつつ忍ぶ身を
心を染めし衣ほころびぬ
陸奥の国昔語の戦にて
雪降りつもるしづかなる庭
とりどりののこるもみぢもめでたきに
鬼のぬめまに風も止みしか
よけがたき道のつまりの開く関
山のまにまに霧うめつくし
天の原大きな月尾根を出で
なみなみ注ぐ灘の新酒
琴の音も添へて寿ぎ歌賑やかに
鳳凰舞ふや清しこの殿

名残 裏

遣り水の橋わたりゆく白き袖
若竹なして競へ友人
暑き日やされば正さむひきしめて
夕立の後業終へむとす
里山を歩ききて知る古き道
荒田の畔に若菜摘む影
雲なるや空わたるらむ花ふぶき
続く玉垣光り満つ春

句上

重十九	一句	光代	三句	明子
まり絵	三句	幸子	四句	武彦
裕雄	三句	和行	四句	節子
満千子	三句	景子	三句	和伸
稔	四句	孝子	一句	敦子

和伸	敦子	光代	明子	まり絵	幸子	景子	和行	節子	和伸	武彦	裕雄	和行	幸子	稔	敦子
----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----



斎行された祭典・行事

〈十一月・十二月〉

一條天皇行幸始祭、厳かに斎行

一條天皇行幸始祭が、十月二十一日午前十時から本殿で厳かに斎行された。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇が初めて当宮へ行幸された日に当たり、長きにわたってこの日に祭典が斎行されてきた。しかし、昭和二十三年に祭典は途絶え、行幸以来千十年の節目に当たる一昨年、約六十年ぶりに再興された。

橘宮司が祝詞を奏上し、皇室の弥栄と国家の安泰、天神信仰の一層の昂揚を祈願した。

行幸始祭



第七回北野大園茶会



第七回北野大園茶会（京都市茶業組合・京都市茶業青年会主催）が、十月十八日午前十時から絵馬所で開催された。

園茶は、名前を秘した五種類のお茶を飲んで茶の種類を当てるという室町時代に流行した優雅な遊びで、三年前からお茶と縁が深い当宮の絵馬所が会場になっている。

当日は、小澤成介組合長をはじめ茶業組合関係者ら約二十名の運営のもと、昨年の二倍の六十二人が参加し、まず玉露・煎茶各二種類の粗茶一種類の葉のにおいをかいだ後、各茶を三回ずつ味わって茶の種類を競った。その結果、十五点満点中九点を挙げた女性が一位となり、加藤迪夫権宮司から北野天満宮賞を受けた。

大園茶会



「去年の今夜清涼に待す」

菅公しのび余香祭を斎行 献詠披露、古式ゆかしく

『重陽後一日』の名高い詩を作られた菅原道真公をしのぶ余香祭が十月二十九日午後二時から本殿で斎行され、この後、恒例の献詠歌披露式が古式ゆかしく行われた。

菅公は右大臣だった昌泰三年（九〇〇）九月、清涼殿の「重陽の宴」に召され、「秋思」の詩を詠まれ、感銘された醍醐天皇から御衣を賜った。一年後、菅公は配流先の大宰府でその時の栄華を追想され「去年の今夜清涼に待す 秋思の詩篇独り腸を断つ 恩賜の御衣今茲に在り 捧持して毎日常香を拝す」との『重陽後一日』の名詩を作られた。余香祭はこの故事にちなむ祭典で、久しく途絶えていたが、大正八年以来重陽の節句の旧暦九月九日を新暦に換算し、毎年この日に斎行されている。

献詠披露式は余香祭の日の恒例行事で、今年の兼題は「鹿」。全国から寄せられた献詠の中から濱崎加奈子氏（歌人、公益財団法人有斐斎弘道館館長）選による十三首を向陽会（冷泉為弘会長）の会員ら六人が車座となり、綾小路流の独特の節回しで披露した。神前には黄色と白の菊花が供えられ、神職・向陽会員らは烏帽子に小菊をかざして祭典の奉仕に当たった。



余香祭

今年の豊作に感謝 新嘗祭を斎行



新嘗祭が十一月二十三日午前十時から本殿で氏子崇敬者らの参列の下、厳かに斎行された。

新穀に感謝する新嘗祭の歴史は古く、『日本書紀』皇極天皇元年十一月十六日の条には、天皇だけでなく皇族や豪族も、それぞれ新嘗の神事を行ったことが記されている。現在に至るも宮中恒例の祭典の中で最も重要なものとされている。

神前に今年収穫した稲穂や米、醸造されたばかりの白酒を始め海・川・山の幸を献じて豊作に感謝するとともに氏子崇敬者の家内安全・家業繁栄を祈願した。

新嘗祭



七五三詣子どもたちの笑顔弾ける境内



十月から十一月の終わりにかけ七五三詣の親子連れの参拝が目立ち、境内のあちこちで子どもたちの笑顔が弾けた。

ピークは例年通り十月の終わりがらとなり、土曜・日曜・祝日を中心に親に手を引かれた子どもたちで賑わい、華やいだ雰囲気にも包まれた。羽織・袴や振袖姿もあり、「かわいい」の声があちこちで上がり、参拝者の向けるカメラにポーズをとる子どももいた。

昇殿参拝し、神妙な表情でご祈禱を受けた後、授与品の千歳飴を持って境内を歩き回る子どもたちの姿に、付き添いの親たちは目を細めていた。

七五三詣



◆平成二十七年余香祭献詠披露選歌「鹿」

奥山に鹿の声をし聞かざれば
秋の我が身は泣かざらましを

田口 稔恵

暗闇に眼を光らせる鹿の前
車よぎるは世の流れかな

若狭 静一

手にとりし鹿の巻筆たが為に
したたむ文に桐一葉まふ

仁枝 尚子

おもはずも鹿の声きこゆ秋の日に
揃ひの帽子のめをと語らふ

村島 麗門

菅公の心やいかに鹿島立ち
ふりさけ見れば都の月かも

白石 雅彦

明けぬれば色づきにけりわが庵の
もみぢ染めけむよべのさを鹿

選者 濱崎 加奈子

名にしおふ秋はもみぢの御土居とて
神鹿こぞり空かけ翔り来や

向陽会会員 榎戸 孝雄

待つ宵の月は遙けしこはき原
起き伏しわぶる鹿のこゑきく

賀茂御祖神社権禰宜 田中 明仁

夕されば萩の葉風のわびしさに
鹿の音遠く秋ぞくれゆく

八坂神社権禰宜 竹中 仁志

紅葉して深むるをさらでだに
あはれなそへそさを鹿の声

八坂神社権禰宜 橋本 正明

そこたから拝し出づれば夕暮れの
飛火野渡る鹿の影みゆ

御霊神社宮司 小栗 栖元徳

透塀にもみちいさよふ秋の夕
ときそと思ふや鹿はしはなく

向陽会会長 冷泉 為弘

山里の鄙の我が家に群れ来る
鹿をし見れば胸の疼らく

北野天満宮宮司 橘 重十九

平成二十八年 献詠兼題

▼一月 人	▼二月 宝	▼三月 峰
▼四月 数	▼五月 灘	▼六月 うつほ
▼七月 沖	▼八月 白	▼九月 左
▼十月 楽	▼十一月 関	▼十二月 鐘
御旅所 憂		余香祭 跡

楼門に申の大絵馬掲出——正月ムード漂う



楼門の大絵馬

平成二十八年の干支、申を描いた大絵馬が十二月八日夕刻、楼門に取り付けられ、一足先に正月ムードが漂った。

申の大絵馬は、例年通り日本画家の三輪晃久画伯が原画を描いたもので、絵材を使い、幅三・三メートル・高さ二・二五メートル・厚さ三・五センチ。総重量約百二十キロという大きなもの。この日、神職・宮大工十人がかりで運び込み取り付けけた。「もう正月ムードだ」と参拝者が作業を見守っていた。

なおこの図柄を用いた干支絵馬が、事始めの十二月十三日から新年の縁起物として枚数限定で授与された。

大福梅の授与始まる事始め

元旦の祝膳に使われる大福梅の授与が十二月十三日の事始めから始まった。

大福梅は、元旦の祝膳で白湯や初茶の中に入れていただき、邪気を払い一年間の健康を祈る縁起物。梅とゆかりの深い当宮境内の約千五百本の梅の木から採取した梅の実を塩漬け・天日干しにして調製したものに裏白を添え、奉書紙に包んでの授与。

平安時代、村上天皇の御代の天曆五年（九五）疫病流行の折、天皇も病に罹られたが、このお茶を飲んで平癒されたとの故事にちなんでおり、「毎年お正月は、大福梅を入れたお茶を飲むのが習わし」という人も多く、初日から授与所は行列ができた。

大福梅授与



巫女の心得、学びました——初詣参拝者の応接研修会

初詣参拝者の応接に当たる正月巫女奉仕者の研修会が、十二月六日午後二時から社務所大広間などで行われ、約八十人の学生が神職から参拝者の接し方などについてみっちり学んだ。

参加した学生は、まず白衣・緋袴の巫女姿となり、本殿に昇殿参拝してお祓いを受け、無事に初詣参拝者の応接が務められるよう祈った。

この後、社務所大広間などで神職から境内の説明などを聞き、参拝者に授与するお守りやお札の概要を学び、受け渡しをする際の心得についても指導を受けた。

正月には、授与所などで直接参拝者と触れ合う重要な役割を担っているだけに、参加した学生は、みんな真剣そのものだった。

招福の梅の枝「思いのまま」の奉製

招福の梅の枝「思いのまま」の奉製が、元日午前零時からの授与に向け、急ピッチで進められた。

「思いのまま」は、境内の梅の木で剪定された梅の枝に、菅公をしのぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取り付け、「家庭に春の訪れと幸せを呼び寄せてほしい」との願いが込められている。水の入った花瓶に枝をさしておくと、早春に花が咲き、「天神さんのご利益をいただいた気がする」と、当宮ならではの初詣参拝者に人気の高い授与品となっている。

梅の枝「思いのまま」



巫女研修



「北野七夕祭」が京都市から表彰 「地域活性化に繋がる活動」



京都市自治記念式典

京都市自治記念式典が十月十五日、京都市左京区の京都コンサートホールで開かれ、「北野七夕祭」を成功させた北野紙屋川七夕祭実行委員会が表彰され、委員会を代表して当宮神職が表彰状を受け取った。

「北野七夕祭」は、

京都市が行っている「京の七夕」に協賛する形で、実行委員会（上七軒歌舞会・上七軒匠会・北野門前菅公会・北野天満宮神若会・北野天満宮）を組織し、八月一日から十日まで初めて独自に北野紙屋川会場として実施した。

オープニングセレモニーには門川大作京都市長も駆け付け、お練りに加わった。当宮では期間中、史跡御土居をライトアップして無料公開するとともに乳幼児のすこやかな成長を願う「泣き相撲」を開催するなど、多彩な行事で盛り上げた。

こうした北野紙屋川七夕祭実行委員会の取り組みが京都のまちの活性化に繋がるとしての表彰となった。



盛大に開催 北野七夕祭（8月1日～10日）



表彰状

京都少年フットサルリーグ 第一回北野天神杯は修学院イエローに栄冠



元気いっぱいフットサル試合の様子

特定非営利活動法人京都市サッカー協会（五十川繁会長）が運営する京都少年フットサルリーグは、十一月二十九日、京都市左京区の宝ヶ池フットサル場で「第一回北野天神杯フットサルリーグ」を開催し、熱戦の末、修学院フットボールクラブスポーツ少年団イエローが優勝した。

小学校六年生（U-12）の部の八チームの総当たりで熱戦を繰り広げた。この日は選手交代自由とあつて各チームとも、どんどん新しい選手を投入したため、日ごろはピッチに立ってない子どもも出場し、元気一杯走り、ボールを蹴った。

U-12の部は、この日が今年の最終戦とあつて保護者の応援も多く、大きな声援がピッチの子どもたちの動きを後押しした。

三チームが六勝一敗（勝点18）で並んだが、得失点差で修学院フットボールクラブスポーツ少年団イエローが優勝。準優勝がAS／ラランジャ京都Rio、三位が修学院フットボールクラブスポーツ少年団ブルー、四位が三勝四敗（勝点9）の南太秦サッカースポーツ少年団となり、それぞれ表彰を受けた。

他の参加チームは、以下の通り。

ランファンサッカースポーツ少年団、春日野クラブB、春日野クラブA、gatt フットサルスクール



北野天神杯トロフィー授与



表彰式チーム集合

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学文学部教授 竹居明男

道真公、陸路にて配所の大宰府に向かう。

―「陸路西下」の段―

第四巻の第一段は、運命が急転した道真公が、牛車に乗って配所の筑紫大宰府に向かう場面である。詞書は、計五紙にわたる長文で、次の文章で始まる。

生涯は定まれる地なし。運命は皇天にあり。思はざりき。大臣の大將より大宰権帥に遷されて、輔弼阿衡ほひつあこう（天皇の政治を輔ける高い地位）の貴名を改めて、配流左遷の拙き名を継がんとは。

そして、承和に生まれ（詞書は承和四年生まれとするが、史実としては同十二年が正しいとされる）、以来「五代（の）帝王」に仕えた栄耀を述べるが、それに比しては余りに理不尽な今の境遇を悲しみ、この上は、合掌してひたすら仏道に帰依しようと、「三世の仏達、哀れと思し召せ。一乗の妙典（法華経）、後生必ず助け給へ」と書き置かれた、と記す。この部分は公自身の大作「叙意一百韻」（『菅家後集』所収）の語句をちりばめたものである。

続いて、白楽天の「北窓三友」の詩にちなんで道真公が詠作した詩（同じく『後集』所収）の一部を引用して公の断腸の思いを偲び、さらに京に残した「北の

方」への和歌

君が住む宿の垣根を行く／＼と
隠るゝまでにかへり見しかな

が（『拾遺和歌集』や『大鏡』等にも見えるが、字句に異同がある）、人々に紅涙を流させたと記す。

計四紙にわたる画面は、すでに都を出立し、どのあたりか定かではないが、山坂道を、道真公が牛車に乗せられて配所の大宰府に向かう様子を描く。

上葺に洲浜形、袖には竹に雀の紋様を施した立派な牛車を力強く曳いている牛の姿が目立つ。配流の作法として前簾を巻きあげており、道真公の袍と指貫ささぬきがわずかに見えている。左右の徒歩の近習たちも悲しみにくれており、行き交う人々の中には何事かといふかりながら行列を凝視している人もいる。行列の後方には荷物を背中に載せた小ぶりの牛がおり、さらにその後方には、緋色の袍の検非違使の一行が随行する姿も描かれている。

道真公、筑紫に向けて船出する。

―「海路西下」の段―

計二紙にわたる第二段の詞書は、

限りありければ、御舟に乗らせ給ひて、何処を
栖すまとも知らぬ波の上の住まい、譬へん方なく悲





「陸路西下」の段

しくぞ思しける。貴賤上下集まりて、父母の別れに同じくぞ悲しみ合へりける。誠に哀れさ類
 少なくぞ覚へし。

で始まる。ついで、その旅程で公が詠じた「我為遷客」云々、及び「離家三四月」云々の詩を引用して（ともに『菅家後集』より）公の心境を偲び、この詩は口外されなかったにもかかわらず、大唐国にてもてはやされたのは「只事と覚えすぞ、恐ろしくは侍れ」と感慨をこめて書き添える。

さらに、この旅程や筑紫の配所滞在中の一年間に、折にふれて公が詠じた詩歌は数多いが、中でも「煙立ちけるを御覧じて」詠じた「夕されば野にも山にも立つ煙／歎きよりこそ燃えまさりけり」、また「雨の降りけるに」詠じた「天のした隠るゝ人もなければや／着ても濡衣干る由もなし」の和歌二首を引用して「此れを見聞く人、涙を流さぬはなかりき」と述べる。ただし、「此れを」以下の一文は実は第三段の詞書の冒頭に記されているものである。

以上に対応する画面は計六紙にわたり、道真公一行が乗船して出航する場面を中心とする。右端には、ここまで乗って来た牛車の轅や、船出を追って駆けつける乗馬の人や僧侶たち、また浜辺には群集する道俗男女が各人各様の姿態で歎き悲しんでいる。随行して来た検非違使までもが別れを惜しんでいるかのように、先に掲げた詞書を見事絵画化しているといえよう。

船上に目をやると、主屋形の中に簾ごしに菅公と思しい人物や、女性・子供の姿が見える。帆柱を挙げず、たわまんばかりに櫂を操る舟漕人夫の姿は、一行の船が今しも出航した様子を描くが、同時に、周囲の碧海には白い波頭が目立ち、舟の舳先の左右前方には海原



「海路西下」の段

に棲息する怪魚がいくつも顔を見せて、前途の不安や多難を暗示している。
 （つづく）

早咲きの梅が可憐に花開く 近年では最も早い開花に



寒紅梅

十二月三日、早咲きの梅である紅梅の「寒紅梅」と白梅の「照水梅」が、それぞれ雨上りの境内に可憐に花開いた。

例年十二月の中頃から下旬にかけて開花する境内の梅だが、今年は暖冬の影響か例年より二週間も早く開花が確認され、一足早い春の訪れを感じさせた。

照水梅

境内と梅苑には併せておよそ五十種、約千五百本の梅が植えられ、例年二月上旬から三月下旬にかけて梅苑を公開する。



JR東海「そうだ京都、行こう。」 キャンペーンに伴い、 絵馬所前に大型ポスターを掲示

JR東海の秋の企画「そうだ京都、行こう。」のメイン会場に伴い、境内絵馬所前に、大型のキャンペーンポスターを掲示し、参拝者の目を引いた。

正月には、その年の干支に因んだ大型行燈を飾る絵馬所だが、昨年はもみじ来苑者が非常に多く、大型ポスターを職員が手作業で作成した。



小林、岩下両氏が献花 馥郁と菊の香漂う

毎年、菊の花を献花されている愛好家の小林浩（京都市左京区）と岩下友行（同山科区）の両氏が、丹精込めて栽培した菊の花を献花された。

菊の花は本殿の両側に展観され、参拝者の目を楽ませた。



ボーイスカウト第八十五団だより

●ビーバー・カブ・ボーイ隊合同で自慢の料理対決

ボーイスカウト京都第八十五団（本部当宮）所属のビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊合同による創作料理対決が、十一月八日午後二時よりスカウトハウスで開催された。

小雨の降る中、各隊員とリーダーあわせて総勢三十名が参加し、自分たちで考えた「自慢のパスタ料理」を調理し、味や見た目、調理方法などを競い合った。



ビーバー隊は「ミートボールパスタ」、カブ隊は「ミレストローネ風パスタ」、ボーイ隊は「シーフードパスタ」とそれぞれ趣向を凝らしたパスタを作り、最後は全員で試食するなど交流を深めた。

神若会だより

●翔鸞小学校六年生が学習発表会で「天神太鼓」を披露

氏子区域の翔鸞小学校で恒例の「秋の学習発表会」が十一月二十日に開催され、在学の子供たち（四十一名）が北野天神太鼓を演奏した。



学年ごとに自分たちでテーマを決め、意欲的に学習させる教育の一環として、同校で毎年行っている学習発表会。今回六年生は郷土愛や地域の伝統文化の学習をテーマに、氏子区域である北野天満宮の天神太鼓をぜひ発表会で演奏したいとの依頼をうけ、実現した。天神太鼓会の指導のもと、当日も素晴らしい和太鼓を演奏し、六年最後の発表会を立派に披露した。

●京都・嵐山花灯路時雨殿にて天神太鼓演奏

嵯峨・嵐山地域の水辺や竹林を含む自然景観などを生かし、情緒豊かな陰影のある露地を約二千五百基の「灯り」で演出する嵐山花灯路が開かれ、十二月



十二日、会場のひとつである百人一首ミュージアム「時雨殿」に天神太鼓会が出演した。二回公演で、書道家の脇田龍峯氏とコラボレーションをするなど、新しい和太鼓の魅力が披露し、多くの来場者を魅了した。

正式参拝された皆様(敬称略)(十月〜十二月)

十月	一日(木)	春日神社 春日講
十月	三日(土)	鷺仲吟詠会 大阪仲友支部
十月	十九日(月)	身延敬神会
十月	二十二日(木)	福井県神社庁 大飯郡支部
十月	二十五日(日)	歌舞伎俳優市川海老蔵丈
十月	三十一日(土)	神道国際学会
十一月	五日(木)	大原天満宮 氏子総代 並びに大原天満宮講員
十一月	七日(土)	寒川神社
十一月	八日(日)	京都紙商燈籠保存会
十一月	十七日(火)	神宮研修所
十一月	十八日(水)	玉津公民館
十一月	十九日(木)	京都北ロータリークラブ紅葉例会
十一月	二十二日(日)	大阪天満宮 鳳講
十一月	二十九日(日)	平壮会
十一月	二十九日(日)	遠藤喜一郎御一行
十二月	四日(金)	七社協議会
十二月	八日(火)	滋賀県神社庁 蒲生支部西部

挙式された皆様(十月〜十二月)

十月	十日(土)	高野剛・睦	ご夫妻
十月	十日(土)	近藤伸彦・菜美	ご夫妻
十月	十一日(日)	福田翔太郎・聡子	ご夫妻
十月	十一日(日)	吉田知寛・友香子	ご夫妻
十月	十二日(月)	藤田貴大・千晶	ご夫妻
十月	十八日(日)	別宮豪一・尚	ご夫妻
十月	十八日(日)	野上忠宏・麻弓	ご夫妻
十月	二十四日(土)	中川茂人・桃子	ご夫妻
十月	二十四日(土)	山本浩孝・麻黄	ご夫妻
十月	二十七日(火)	青木卓・美保	ご夫妻
十月	三十一日(土)	宮本亘・瞳	ご夫妻
十一月	十一日(水)	中島志朗・美冬	ご夫妻
十一月	五日(土)	山内崇・麻衣子	ご夫妻
十二月	十日(木)	山田哲・成子	ご夫妻
十二月	十一日(金)	ソジエグ・亜里紗	ご夫妻
十二月	十二日(土)	松村憲治・真桜	ご夫妻
十二月	十八日(金)	竹橋翔平・夏実	ご夫妻
十二月	十九日(土)	林将生・昕妮	ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の末永い
ご多幸をご祈念申し上げます。

天神さん
思い出写真館

前号に引き続き昭和三年春斎行の千二十五年半
萬燈祭の写真集からの一枚で、説明には「連歌式
奉仕員 四月二十九日」とある。記録を見ると、
二日前から献詠祭が執り行われており、初日が歌
披露式、二日目が詩披露式となり、三日目が連歌
式だったことがわかる。

記録では、芭蕉堂の宗匠が半萬燈祭を取り仕
切った北野会の委員になっており、連歌式は、同
宗匠の社中から募って奉納してもらった、と記さ
れている。裃姿の人たちが並ぶ中、前列中央に頭
巾をかぶった二人が周囲と雰囲気異にしており、
宗匠と脇宗匠らしい。

「午後一時、宗匠は諸役を率いて拝殿に参進し、
修祓を受け連歌式を開始す……宮司以下参進、献
詠祭を行い、諸役は連歌披露式を行い午後四時祭
典を終わりとる」とある。この写真は、その後の
撮影かもしれない。

ちなみに歌
と詩の披露式
の読師には、
子爵の名前が
ずらり並び、
烏帽子・狩衣
姿と書かれて
いるが、残念
ながらこちら
の方の写真は
ない。



月釜献茶(一月一日〜四月三十日)

〇二月

一日	献茶祭保存会	休会
十五日	献茶祭保存会	速水滌源居(明月舎)
	松向軒保存会	奥水 宗津(松向軒)
十七日	梅交会	西澤 宗房(松向軒)
二十四日	紫芳会	休会(松向軒)

〇三月

一日	献茶祭保存会	北風 宗照(明月舎)
十四日	梅交会	泉恵会(松向軒)
十五日	献茶祭保存会	堀内社中(明月舎)
	松向軒保存会	本間 宗寿(松向軒)
二十八日	紫芳会	鬼塚 宗節(松向軒)

〇四月

一日	献茶祭保存会	金澤 宗維(明月舎)
十三日	梅交会	岡本美知子(松向軒)
十五日	献茶祭保存会	半床庵社中(明月舎)
	松向軒保存会	常磐会(松向軒)
二十七日	紫芳会	植中 宗佳(松向軒)

〇五月

一日	献茶祭保存会	多門 宗粒(明月舎)
十日	梅交会	未定(松向軒)
十五日	献茶祭保存会	中田 宗俊(明月舎)
	松向軒保存会	西川 宗青(松向軒)
二十四日	紫芳会	今村 宗幸(松向軒)

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

十月「刈田」

十一月「凜」

見はるかす刈田を渡る風冷えて

耐えし猛暑は思ひ出の中

会社員辞めて一人で農に就き

三年経ちて稲穂刈りける

天恵に謝して刈田の溝を切る

農夫に熱き晩酌の待つ

真鶴の来るには少し早いねと

冬待ちわびる刈田の声す

刈田よこ晩稲黄金あわい田は

櫓青々白さぎ遊ぶ

刈田をば見渡すときとぞうれしかる

ゆたかなみのりたしかめてこそ

天津罪被ひし故かことなくて

実り刈られし田こそめでたけれ

刈りし田の粗き苫屋に袖ひだて

田長の心しのびけるかも

【評】

刈田の風景も身近なものではなくなってしまうた。歌を通して、人間にとってもっとも大切な食のありようまで考えさせられる。

日本の靖国神社殿として

凜とし参拜国會議員

終戦後凜と生きてた女性達

子等に夕飯食べさせる為

雪降りて花芽は眠る時季なれど

柊のみぞ凜と咲きける

凜とした制服今も捨てきれず

終活といふ苦行に惑ふ

すがしさのなかにも凜ときらめきて

ときのながれに失せてなると

庭に立ち紅梅殿を眺めれば

几帳ゆらぎて凜と香れり

かの君の檜の舞台白足袋の

進める姿凜と麗し

【評】

和歌にはあまり詠まれないが、今の人がイメージしやすい語かもしれない。風景や音、人の生き方まで評することができる。



● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

祭事暦（一月一日～三月三十一日）

一月	一日	午前七時	歳旦祭（中祭）
	二日	午前九時	筆始祭
		午前十時	天満書
	三日	午前九時	神前書初め（四日まで）
		午後一時	家庭書初め（五日まで受付）
			元始祭
			奉納狂言
			猿楽会・茂山良暢社中
	七日	午前九時半	若菜祭
	九日	午前十時	撰社白太夫社例祭
	十四日	午前十時	末社伴氏社例祭
	十五日	午前十時	月次祭 御粥祭 成人祭
	十七日	午後四時半	神社役員新年奉饌
	二十五日	午前九時	月次祭
		午後四時	夕神饌
			初天神
			書初め「天満書」授賞式
二月	三十日	午後三時	月首祭
	一日	午前十時	節分祭
	三日	午後一時	北野追儼式
			追儼狂言 茂山千五郎社中
			日本舞踊 上七軒歌舞会奉納
			豆撒き
	四日	午前十時	霞祭
			地主社霞祭
	六日	午前十時	末社稻荷社 初午祭
	十一日	午前九時半	紀元祭
	十五日	午前十時	月次祭
	二十四日	午後四時	梅花祭前夕饌
	二十五日	午前十時	梅花祭（中祭）
		午後四時半	夕神饌
			野点茶会 上七軒歌舞会奉仕
三月	一日	午前十時	月首祭
	十二日	午前十時	撰社老松社例祭
			撰社福部社例祭
	十五日	午前十時	春祭（大祭）
	二十一日	午前十時	春季皇霊祭遙拝式
			撰末社 春季祭
	二十五日	午前十時	月次祭
		午後三時半	梅風祭 八乙女舞奉納
		午後四時半	夕神饌
	二十七日	午前十時	撰社宰相殿社例祭

重要文化財「絹本著色舞楽図」(二) —— 神楽舞図 ——

「神楽舞図」を、前号に引き続き、主として泉武夫氏の論考によりながら紹介していこう。神楽舞図の左上部には、北野社と思われる社殿の階を描き、その右に大輪の梅と老松とを描き、場所が北野社であることを暗示させる。また梅と松に重ねあわせるように霞が層状に描かれている。その輪郭には銀泥が用いられており、そこから描かれた場面の時は夜ということになるうか。

画面には大きく二つの場面が描かれている。左側には神楽の場面を、右側には円舞を描く。神楽の場面は、社殿に向かうように、縦に二列、高麗縁の畳が敷かれ、歌方と楽人が座している。向かって右の畳には、笏拍子を持つ本拍子を上座とし、ついで和琴・笛・笙と続く歌方が座している。

畳の列のあいだには、神楽であることを示す庭燎^{にわび}があり、その下方に舞人の長である人長が右手に採り物（輪状の柵）をとって一人踊る姿が描かれている。末方の畳の上席には箆^{へら}を持つ人物がみえる。

右半分は、厳粛な場面の左半分と代わって、賑やかな楽舞の景が描かれている。向かって右上部に束帯姿の歌方が坐し、少し離れて四人の管方が、筵の上に坐す。楽器は右から笙、和琴、笛、箆、箆である。衣裳は、垂縷の冠（冠の付属物である縷^{えい}を後方にたらしたままの冠）

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授

藤井 讓治

に闕腋袍（両わきの袖付けの下を縫い合わせないで開け広げたままの袍）と表袴である。その背後には、小竹の台がみえる。

その前面には円形に一〇人の舞人がそれぞれ別の姿態で、また円舞の右上には柵輪を



舞楽図（神楽舞図）



神楽舞図（縮図）

持った人長が、描かれている。舞の種類については諸説あるようであるが、泉氏は、平安時代から鎌倉時代にかけて盛んに催された楽舞のひとつ「東遊」ではないかとする。

写真1は、舞楽図（神楽舞図）であるが、写真2は、明治八年（一八七五）に京都府に提出された「古文書宝物什器再取調書」に収められている本図の縮図である。その描写は極めて精緻であり、現物ではよくみえない部分も判別できる。

春の宝物殿特別展公開

北野天満宮「宝刀展」開催



学問の神・驚きの
北野
天満宮

宝刀展

特別公開

鬼切丸 重文
恒次 重文
助守 重文
師光 重文
國弘 重文
表次・活目・通目・全通
刀身・包首・金具

2015年 1 / 23(土) ▶ 3 / 13(日)

梅苑・宝物殿 拝観共通券割引あり

	観覧券	宝物殿	拝観料金	観覧料金
一般	700円+300円	1000円	950円	950円
中高生	700円+250円	950円	900円	900円
小・人	350円+150円	500円	450円	450円

開館時間：午前9時より午後4時まで

北野天満宮宝物殿 〒602-8386 京都府京都市上区西馬場町 1-1 075-461-0005 (代表)

北野天満宮ホームページ <http://www.sano-temangu.or.jp>

平成二十八年一月二十三日より、宝物殿特別展『宝刀展』と題し、当宮に伝わる御神刀の数々を特別公開します。

菅公は文武両道の神であり、特に戦国時代期に於いては菅公を武道の神として崇め、武運長久を祈願するため名立たる武将が北野を参詣し、多くの刀が奉納されました。

近年は日本刀ブームとも言われ、特に若い世代を中心に宝物殿への来館が増えています。今回の特別展では、所蔵の御神刀約八十振りのうちおよそ四十振りを公開。中には『鬼切丸』や『恒次』など重要文化財五振りも展示し、北野天満宮ゆかりの御神宝をご覧頂きます。

宝物殿特別展「宝刀展」

◎開館期間

平成二十八年一月二十三日(土)

三月下旬(梅苑閉苑)まで

◎開館時間／午前九時～午後四時まで

※梅苑・宝物殿 拝観共通券割引あり

三、二月二十五日、
り、
に
妓 十時より

A photograph of two women in traditional Japanese kimonos sitting on the floor and playing a board game on a low table. The woman on the left is wearing a purple kimono and the woman on the right is wearing a red kimono. They are both looking at the game board. The game board is a low, rectangular table with a dark surface and light-colored edges. The background is a plain, light-colored wall.

梅の枝「思いのまま」

元旦からの授与



一昨年の初天神で約六十年ぶりに復活した招福の梅の枝「思いのまま」を本年も元旦から授与する。

かねてから「剪定された御神木の枝を授与してほしい」との声が崇敬者から強く寄せられており、千五十年大萬燈祭（昭和二十七年）の年に初天神で参拝者に授与していた経緯があったことから、一昨年の初天神で約六十年ぶりに授与を復活させた。

「思いのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

◆頒布開始 平成二十八年元旦より
◆初穂料 一本一〇〇〇円（但し、無くなり次第頒布終了）



招福厄除けの社 北野天満宮の節分祭

二月三日
午前十時



◆節分特別授与品の頒布

●福豆の授与

三種類（春の舞妓・鬼・福の神）

※豆袋の中には「当たり」札入り 各一袋 二〇〇円

●災難厄除箸の授与

福豆とともに、日々の災難あるいは厄除けを祈願するお箸。

福豆三袋十箸三膳セット（五〇〇体限定）

八〇〇円

●災難除の御札守・銀幣の授与

災難除の御札

一体 三五〇円

災難除の御守

一体 三五〇円

銀幣（御札と御守と御幣のセット）

一体 九〇〇円

福豆三種

福の神



鬼



春の舞妓



御縁日 境内ライトアップ

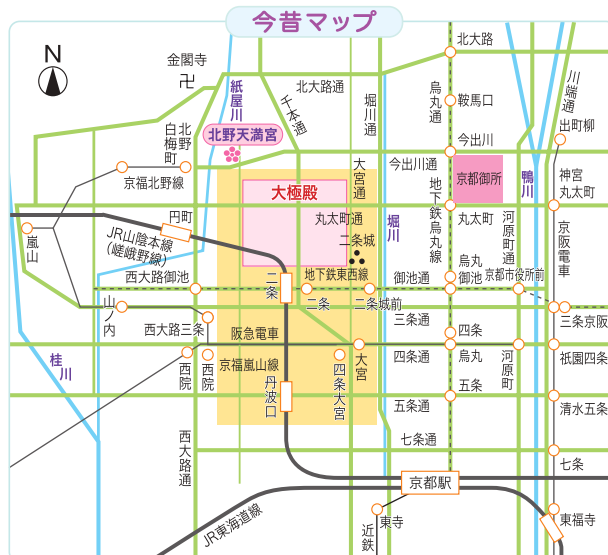


毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京（大内裏）
- 大極殿（室町時代迄の平安京）
- 京都御所（室町時代以降）

